

2010年10月22日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

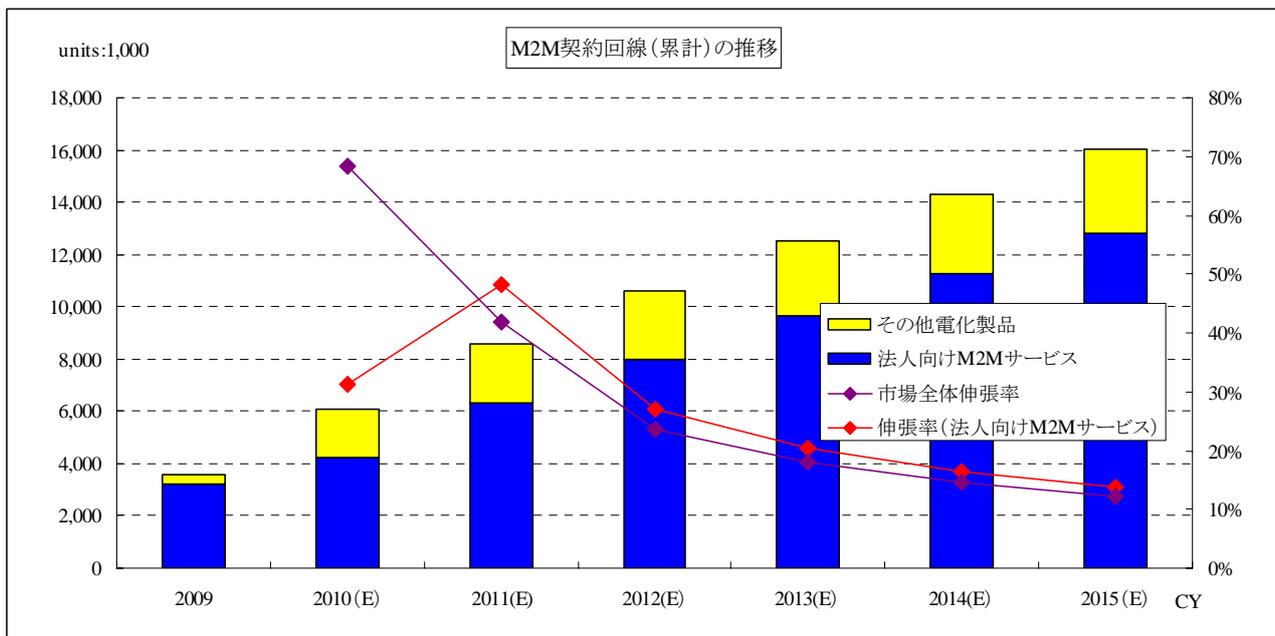
国内モバイル M2M 市場は 2012 年までに 1,000 万回線に達する見通し

～ 電力監視やセキュリティ用途、決済データ通信などで需要が拡大していく ～

株式会社テクノ・システム・リサーチは、国内における携帯電話や PHS などのモバイル回線を利用した M2M (Machine to Machine) 市場に関する調査報告書『国内モバイル M2M 市場動向調査』を 2010 年 10 月中旬に発刊しました。

2009 年末時点で、M2M サービスで利用されているモバイル回線の契約数はおよそ 360 万件だったが、2010 年には 600 万件に増加し、2012 年には 1,000 万件に達する見通しで、モバイル回線全体の 10%前後を占めるようになる。

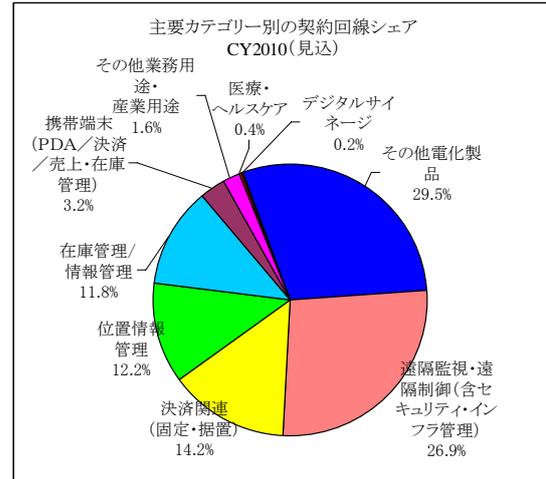
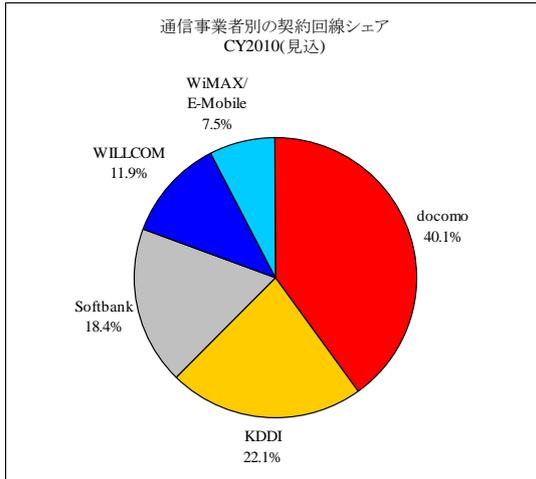
現在、M2M サービスの契約回線の中で最も高いシェアを占めているのは、電力監視・管理などを含めた遠隔監視の分野であり、市場全体の 4 分の 1 以上を占めている。次いで成長が著しいのは、電子マネーやクレジットカードなどの決済データ通信分野で、こちらは 2010 年には前年比で約 50%、2011 年には約 70%のプラス成長が見込める。また、車両に搭載されて位置情報を管理する動態管理サービスや運行管理サービスの分野も、業務用車両に限らずカーナビと連動したサービスなどが乗用車でも普及していることから高い成長が見込める。



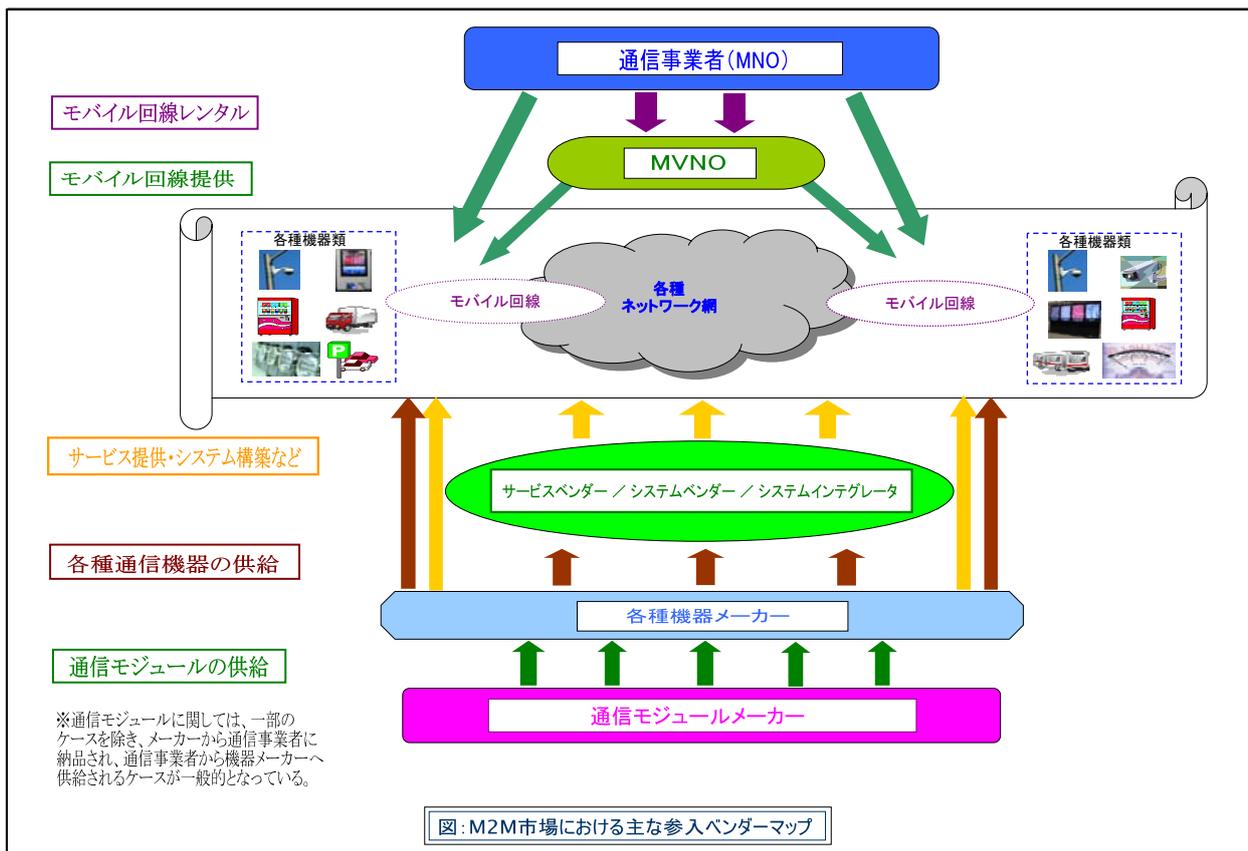
本調査では、遠隔監視などの法人向け M2M サービスに加えて、デジタルフォトフレームや通信モジュール内蔵ノート PC などの一般個人向けの家電製品なども調査の対象としたが、これらの市場規模は M2M の契約回線全体の 2~3 割近いシェアを占めるものと見られる。

今後の動向としては、HSPA に加えて WiMAX の普及、さらに LTE サービスの本格的な導入などを受けて、大容量データを高速で送受信することが可能となるため、デジタルサイネージ用途などの割合が伸びてくることが期待される。このほか、現状ではあまり利用が進んでいない医療やヘルスケアの分野においても、各種団

体等がサービスの導入に向けて様々な取り組みを行なっていることから、徐々に M2M サービスが普及していくものと見られる。



利用されているモバイル回線の動向を見てみると、NTT ドコモの回線を利用したサービスが最も高いシェアを占めており、2010 年では全体の 40%以上を占めるものと見られる。しかし、デジタルフォトフレームなどの家電製品のシェアを見てみると、Softbank が 50%以上のシェアを占めており、この分野では今後も同社が高いシェアを占めていくものと見られる。また、WiMAX 回線は常時接続や高速通信を利点として、デジタルサイネージをはじめとした様々な分野で利用が進み始めている。



【資料紹介】

『国内モバイル M2M 市場動向調査』は M2M 市場について、契約回線数をベースとし利用カテゴリーを 9 つに分けて、通信事業者及び各カテゴリーについての概況及び長期的な動向についてまとめております。

【プレスリリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ
第2グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp) TEL:03-3866-4505